



人権だより(4月)

目標「人権意識を高め、周囲を思いやりながら、
新型コロナウイルスに負けない生活をしよう」

人権委員会 R2.4.30
①兼久みお・宮地晃成・後長夏希・
濃田陽斗・三好悠音
②猪熊紘乙・倉橋真生・鮫島優良・
船田鉄心・松原智希・矢野呼春
③天野智仁・井戸俊佑



【テーマ】「身近にある偏見や差別について考える」

【1】性別や障害に関わる人権作文を読んだ感想(担当3年生)

●積極的に料理や掃除などの家事をこなす父をもつ女子生徒の主張(一部抜粋)

～中略～ ある日、私は学校でビデオを見ました。それはごく普通の家庭の一日を映したものでした。男の子には「ちゃんと勉強しなさい、男の子でしょ。」女の子には「女の子だから、お手伝いしてね。」「なんだ、これは。」と思いました。いちばん身近にある家庭でこんな差別があったのです。このビデオを見てから、また友達とのやりとりから、私は男性と女性の中にある差別について考えるようになりました。昔は、女性の家での立場はとても低く、男の子の方が、立場が高かったそうです。今日ではある程度女性の立場は上がったけど、まだ男性の方が高いところにあるような気がします。テレビに映る政治家や消防士、パイロット。これらの職業はほとんどが男性で、女性はほんのわずかです。その理由として、体力的に無理だ、などが挙げられます。しかしそれは、「男性にはできるが女性にはできない」という固定観念があるせいで、本当はもっと女性が活躍できる場があると思います。「女性だから。」そんなつまらない理由で職業が限られてしまうなんて、それじゃあ女性は悔しいと思います。私も悔しいです。女性だって男性より優れている面もあるからです。そこで、世界に目を向けてみると、やはり男女差別はありました。英語の教科書で学習したのですが、職業を英語で表すとき、男性を中心にした言い方が多くあったそうです。しかし、最近になってそういう言葉を女性も男性も使える言葉に直すということが行われているそうです。その他にも社会で学習したのですが、国連では女子差別撤廃条約が採択されたりしています。そして日本はというと、女子差別撤廃条約に加盟して、それとともに男女雇用機会均等法という法が制定され、平等が義務づけられました。しかし、これらの法律ができたのは、まだ女性が働く機会を男性と平等に与えられていないからです。そして法律が制定された後でも、完全に平等にはなっていません。これはつらい現実です。そして、差別を生み出すものを見ると、家庭のしつけが問題になってくると思います。よく母親は子供に「男は勉強、女は家の仕事をすればいい」ということを少しずつ教えてきました。私の家でさえ、弟には家事の手伝いをさせようとはしません。つまり人は、小さい頃から少しずつ差別の心を植えつけられているのではないのでしょうか。身近な差別をなくすためには、家庭で、家族で、少しずつ考え方を変えていかなければならないと思います。そうすれば、社会にある差別もなくなっていくはずで、法に頼るのではなく、自分達で解決していこうとする意識が一番に求められているものだと思います。そして、父のように家事を当たり前に行う男の人が増えればいいと思います。



【感想】

私がこの作文を読んで感じたことは、2つあります。1つ目は確かに身近にも男女間の差別は存在しているという実感でした。2018年に航空自衛隊初の女性パイロットが誕生しましたが、ニュースなどのマスメディアでは、このことをあまり大々的に報道しているようには感じませんでした。男女間の差別をなくすには、まず、メディア等でこういったことを積極的に報道、呼びかけをしていくことが大切なのではないかと感じました。2つ目は私の実体験から感じたことです。私は料理をするのが好きなのですが、初対面の人にこのことを話すと、驚かれることがよくあります。これは、料理は女性がするものという固定観念が少しでも皆の心の中に残っているからではないかと思っています。こういった身近な男女間の差から埋めていかなければ、本当の意味で男女差別のない世界はできないのではないかと、私は考えます。

●日頃から身近にある人権問題の学習に意欲的に取り組んでいる生徒の主張

～中略～ 私の母は五人兄弟の長女です。母の妹、つまり私の叔母たちは、三つ子の三姉妹で、その一人が車イスの生活をしています。この叔母は生まれつき足が不自由なのですが、いつも明るく優しい人で、私はこの叔母が大好きです。この叔母と一緒に外出した時のことです。周りの人たちがこちらをちらちら見て、すごく嫌な思いをしたことがありました。けれども私は、「どうしてこちらを見ているのですか」とは、言えませんでした。そこには傍観者の立場の弱い自分がいきました。あのとき、叔母の方が何倍も嫌な思いをしたと思います。障害のある人に対して、「障害を個性として受け止めればいい」とよく言いますが、なかなかこの言葉通りにはいかず、私も含めて世の中はまだまだそこまでいいと思いません。また、ある日のこと、私の一番下の妹が、次のようなことを言ったのです。「私が病気になるって血をもらうことになったら、お母さんの一番下のおばちゃんの血をもらうのは嫌だな」、私はすぐに「何で？」と、聞き返しました。すると、妹は、「おばちゃんは体が悪い(障害者)からうつると嫌だ」と、答えたのです。私は、その言葉に啞然とし、何も言えないでいました。すると母が、「あんたが言っていることは差別なんよ。障害のあるおばさんから血をもらったからといって障害がうつることなんかないよ。大切な血をもらって命を助けてもらったのなら感謝せんといかんのよ」と。母の言葉に妹は「そうなん。わかった」と、素直にうなずきました。私も母のように、誰かの間違っただけを見聞きしたら、その場で正すことのできる人間になりたいと思います。また、いくら正しいことを学んでも、それを実践できないと何もならないと痛感しました。幼さから何も知らずにこんなことを言った妹ですが、何も教えられず、あるいは間違っただけを教えられて差別をする人になってしまったらと考えると、悲しくてたまりません。妹にも、正しいことをきちんと学習して、差別をしない人になってほしいと、強く思いました。この二つの経験を通して「無知」がいかに差別を生んでいるかがよくわかりました。



【感想】

私はこの作文を見て無知が差別を生むという言葉に、その通りだと思いました。医学が発達していない時代は、障害は悪魔の仕業だなど、根拠のない理由で差別されてきました。この文でも「障害のある人から血をもらおうと障害がうつる。」という根拠のない差別があります。しかしこのような発言をした人は、「障害はうつらない」と言う知識を教えてもらいました。間違いから起こる差別は正しい知識で無くすることができる。私も正しい知識を身につけ、伝える人になります。

【3】人権委員会より

●新型コロナウイルス感染症について



世界で感染大爆発が起こっている不安な日々、皆さんはどう過ごしていますか。ニュースやSNSでは常にコロナ関連の情報に加え、浅はかな行動をする国民に対する専門家の怒りのようなコメントを耳にします。片や自宅で楽しむためのアイデアや動画配信もまたたくさんあふれています。世界が沈んでいるこの状況下で、メディアを通して私たちが求めているものはなんでしょうか。寂しさを拭く楽しさやぬくもりなののでしょうか。私たちの本当の悩みの種はウイルスにあるはず。今一度、人との関わりの大切さを再認識し、少しでも早く終息に向かうための智慧ある生活と、自粛解禁後の活動再開に向けて、粛々と準備を整える時間にしましょう。今こそ人権意識を醸成するときです。

●連絡…毎年、人権標語を募集し、良い作品が集まり、校内に掲示することができます。

今年度も、**標語を募集します**。そして集まった作品の中から、人権委員会で人権的な視点でより良い作品を数点選んで紹介します。後日、学校再開後に連絡がありますので、ご協力お願いします。

●校内スローガン「ペイフォワード運動～親切の輪を広げよう～」

5年前より「ペイフォワード」運動を掲げ、親切の輪を広げる意識改革を進めているところです。

今年度も意識・実態調査を行いながら、具体的な取組を検討し、実践していこうと思います。

ペイフォワード (Pay Forward) とは…人から親切な行為を受けた後、その感謝を更に他の複数の誰かへの親切に変えて行動し、善意を広げていくこと。※映画「ペイフォワード」から引用。